

こたえ 呉越同舟

基礎②

呉越同舟

(中国の故事)

昔、中国に、呉と越という二つの国がありました。二つの国は、長い間、はげしく争い合
い、人々は、たがいに相手の国の人をにくみ合っていました。その争いは、何代にもわたっ
て続きました。

けれども、昔の兵法の本には、こんなたとえが書かれています。

「呉の人と越の人は、にくみ合っている。しかし、もし、その二人が同じふねに乗って川を
わたっているときに、大風がふいて、ふねがしずみそうになったら、どうするだろうか。二
人は、まるで左右の手のように、力を合わせて助け合うにちがいない。」

どんなに仲の悪い者どうしても、同じ危険にあえば、自分たちが助かるために協力し合
う、というのです。兵法の本は、このたとえを使って、兵たちを、にげ場のない状況に置け
ば、心をつにして戦うようになる、と説いています。

この話から、仲の悪い者どうしが、同じ場所にいたり、同じ目的のために協力したりする
ことを、「呉越同舟」というようになりました。今でも、ふだんは競い合っている会社どうし
が、災害のときに協力し合うような場面で、この言葉が使われることがあります。

1

呉と越は、どんな関係の国でしたか。

長い間、はげしく

争い合って

いた。

2

ふねがしずみそうになったら、二人はどうすると書かれていますか。

ア

にげ出す。

イ

力を合わせて助け合う。

ウ

けんかを続ける。

3

二人が協力し合う様子は、何にたとえられていますか。

左右の手

4

「呉越同舟」の使い方として、正しいものに○をつけましょう。

ア

ライバルの二チームが、ボランティアで協力した。まさに呉越同舟だ。

イ

仲のよい友だちと、楽しく遊んだ。まさに呉越同舟だ。

ウ

一人で、静かに本を読んだ。まさに呉越同舟だ。